
ジャーナリズム史II 第1回

昭和前期 縮軍から拡軍へのムード
ファシズムへの道

昭和10年代 新聞統制時代

ジャーナリズムと戦争を考える

- 6月のジャーナリズム:
 - 6月4日、6日、23日
- 7月のジャーナリズム
 - 7月7日
- 8月のジャーナリズム
 - 8月6日、9日、15日、17日
- 9月のジャーナリズム
 - 9月2日、11日、(18日)
- 10月のジャーナリズム
 - 10月21日
- 12月のジャーナリズム
 - 12月8日、23日
- 2月のジャーナリズム
 - 2月26日

読んでおきたい文献

- 春原昭彦「新聞人群像-もう一人の新聞人-」『コミュニケーション研究』no. 28(1998)、「新聞社における調査部の役割とその変遷」no. 23(1993)
- 田中浩(編)『近代日本のジャーナリスト』
- 『別冊新聞研究 聞き取りでつづる新聞史』
- 朝日『戦後五〇年 メディアの検証』
- 坂上康博『権力装置としてのスポーツ-帝国日本の国家戦略』講談社選書メチエ136(1998)
- **鎌田 慧『反骨のジャーナリスト』岩波新書、2002**
- 佐藤卓己『八月十五日の神話-終戦記念日のメディア学](ちくま新書544)
- 朝日『戦争責任と追悼](朝日選書810、2006)
- 朝日『新聞と戦争](朝日、2008)

-
- 桐生悠々『畜生道の地球』中公文庫
 - 井出孫六『抵抗の新聞人 桐生悠々』岩波新書、1988
 - 今西光男『新聞 資本と経営の昭和史』（朝日新聞社、2007）
 - 楠 精一郎『大政翼賛会に抗した40人』（朝日新聞社801,2006）

ジャーナリズム史チェックポイント

✓ 内川・新井『日本のジャーナリズム』

→1. 政論ジャーナリズム 2
キャンペーン時代のジャーナリズム

✓ 『聴きとりでつづる新聞史』

→新聞人の生き様とジャーナリズム

✓ 春原『日本新聞通史』

→クロニクルで新聞紙面の変化を伝える

✓ 井出孫六『抵抗の新聞人 桐生悠々』(岩波新書、1980)

✓ 木村栄文『記者ありき 六鼓 菊竹淳の生涯』(朝日新聞社、1997)

1. 昭和前期 政党政治から軍閥の台頭

- 誤報から校閲部創設:「元号は光文」(東日)
 - 誤報、誤植は「逆賊」の時代に
- 普選実施(昭2)と治安維持法
- 昭4 徳富蘇峰 『国民』を去る—パーソナルジャーナリズム終焉
- 昭5 日本新聞聯盟結成。新聞共同宣言
- 昭6 軍部の干渉 謀略と虚報 関東軍
 - 9.18 満州事変勃発:臨時ニュース 放送が号外に先んじる
 - 柳条湖・満鉄爆破 132社共同宣言